

# 昭和25年頃の

## 2号館屋上(現在の3階になる)

### より四方を見渡す



明大付属中学校

屋上より水道橋方面を望む



屋上より九段方面を望む

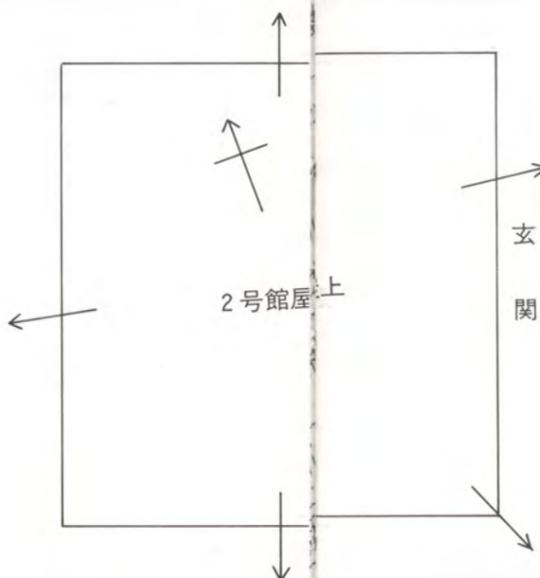
現在の九段や水道橋方面は、大きなビルが建ち並び現在はこの写真の時代とはすっかり変わってしまっている。戦後から30数年の移り変りのはげしさを痛感する。

上野・博物館



順天堂大学

屋上より上野方面を望む



2号館屋上から、上野の博物館を望めた年代もあった。写真では神田川対岸の順天堂が意外にも近くに見えるように見える。現在、予備校や明大、日本化学会などが建っている場所は、全て木造の家屋であった。

明大・大学院



屋上より両国方面を望む

昭和25年頃は、屋上より遠く両国の花火大会をみることもできた。ピヤ樽を屋上にあげ生ビールをのみながらの「花火」の夜は愉快なものであった。周辺にビルが建つにつれ、これも夢のような昔話になった。



錦華小学校

屋上より神保町方面を望む



主婦の友社結婚式場



(昭和18年頃)

主婦の友社 (主婦の友資料センター提供)



昭和14年駿河台ホテルをとりこわす  
(主婦の友資料センター提供)

山の上ホテルの坂道を下って道路をわたった地は、昔駿河台ホテルであった。昭和14年これを取りこわし主婦の友社の結婚式場となった。この建物の奥にみえる土蔵、当時日大工学部の図書館で、その右側の建物(2階建)の階は、工業化学科の学生実験室として使用されていた。何れ主婦の友社から借用していた建物である。昭和38年に取りこわれ、現在のお茶の水スクエアBC館となった。

大正5年、東京家政研究会として創立し、大正10年に主婦の友社に社名が変わり、昭和12年に駿河台社屋に移転した。ヴォーリスの設計による有名な建物である。

昭和62年にこの社屋は、磯崎新の設計により新社屋に建かえられた。大正モダニズムの文化的遺産として旧社屋の一部は復元し壁面は粘土で型をとり、焼直したセラミックスを新社屋壁面にはりつけ、ヴォーリスの建築物の保存に留意されたという。



昭和63年現在



William Merrel Vories(米)



昭和4年頃の東京YWCA（「本の街」編集室提供）

東京YMCAは明治38年に創立された。写真は関東大震災後に建替えられた時のものである。（昭和41年1月完成）スペイン風の名建築でカフェテリア、バルコニヤや暖炉のある集会室、チャペル、屋上庭園などがある。昭和18年に軍に、また戦後は進駐軍に接収された。建物の老朽化がはげしいので、昭和63年1月に取り壊しが始まり、鉄筋8階地下2階の新館が昭和65年完成の予定と聞く。

写真では、日大工学部（現理工学部）の本館が建築中である。また現在の主婦の友お茶の水スクエアB館の位置には、当時は駿河台ホテルが建っていた。

## 工学部(理工)旧図書館とその周辺

工学部の旧図書館は、主婦の友社からの借用地に建っていた。現在の主婦の友お茶の水スクエアC館の建っている位置である。

図書館全景の写真でみられるように木造家屋で、書庫は土蔵であった。

この図書館は大正15年、高等工学校所属として発足し、昭和3年に工学部が設立されて、全て移管され工学部図書館となった。

昭和33年、工学部は理工学部になり、同年6月に図書館及び同じ敷地内に建っていた実験室（木造2階）と校庭は、理工学部より地主の主婦の友社へ返還され、7月にとりこわされた。旧図書館は返還までに30年を経過したことになる。

昭和33年当時の蔵書数は33,561冊、洋書13,004冊、和書雑誌137種類、洋書雑誌246種類、その他寄贈雑誌100種という。対象となった学生は理工学部一、二部、短大二部及び工業高校であった。

主婦の友社に土地を返還すると同時に、旧図書館の蔵書は一時日進講堂に移された。昭和46年に現在の図書館（6号館）の竣工により9月に開館され、現在に至っている。

昭和63年3月現在で駿河台図書館の蔵書数は約25万冊、習志野校舎の図書館は約15万冊、合計40万冊である。

名残り惜しい土蔵図書館



新聞「若きエンジニア」18号（昭33.6.9）より

旧図書館の全景



航研機が世界記録を目指して真紅の翼を大空にはばたかしていた昭和13年5月20日、旧図書館（現在主婦の友スクエアC館の位置）前の校庭（空地）に工学部学生約600名が集り、ブラスバンドの演奏のもとに、若きエンジニアの歌や愛国行進曲の大合唱を行なった。



旧図書館 閲覧室（専工2回生のアルバム）



図書館前の空地での集合 日大新聞（昭13.5.20）より



② 昭和35年完成の日本化学会



① 木造家屋時代の日本化学会  
(日本化学会提供)

お茶の水駅より工化2号館に通学するときには大部分の人が通るのが「とちの木通り」で、別名マロニエ通りとも呼ばれる。写真⑤の右角は、昔国民中学会があったようで、その後これは明大の建物となった。左角は明大の大学院である。昭和20年代のここは空地でかなり高い石垣があり、その上の平地はテニスコートとして使われていた。石垣の名残りは現在もごく僅かだが残っている。

この通りの両側の並木はとちの木であり、昭和20年代は今と違って大変雰囲気のよい通りであった。右側には東大医学部の三浦勤之介先生の邸があり、跡地に

現在は明大11号館⑥が建っている。戦前、工化2号館前は空地で、三浦先生の孫にあられる三浦勤一郎先生(東大工学部工業化学科教授)は小さいときこの空地でよく凧上げをした思い出があると語られた。

工化2号館へ向う曲がり角には、写真①のような木造家屋があり、そこに日本化学会の事務所がおかれていた。これは後に建て替えられ(写真②)、永井彰一郎先生が日本化学会の会長をされた昭和35年に現在の建物が完成した。これも間もなく再び建替えられることがすでに決まっている。

とちの木通りを更に奥に進むと、自由な学風で有名な文化学院がある(写真③)。戦争中は強制的に学園は閉鎖され、将校の捕虜収容所、通称文化キャンプとなっていた。この周辺に爆弾が落ちなかった理由ともいわれ、工化2号館もそのおかげを蒙り、焼けなかったのかもしれない。

文化キャンプについては、当時捕虜となっていた米

## 「とちの木通り」



③ 文化学院(昭和63年)



④ 日本大学総合医療センター

人将校が最近米国からやってきて、その当時の様子を語る様子をNHKが放映(63.3.5)していた。捕虜に対して親切に接した日本人が多くおられたようである。

文化学院の斜め向いに、数年前に日本大学医療センター④が建てられている。

この道をさらに奥へ進むと右側に主婦の友図書館があった。これは昭和20年代のことだが現在はすでにない。またこの通りに面してお邸が数多くあったが、すでになく最近はすっかり近代的な建物が建っている。

とちの木通りの周辺は、医者や病院も多く、この通りの裏には東京芸大付属高校、日仏会館、池坊学園などがあり文化の香りの高い感じのする所である。

終戦後のこの通りは、恋人同士の散歩姿をよくみかけたが、現在はかなり様変わりし、昔この通りがもっていた情緒が失われてしまったように思えてならない。

(東大の三浦先生を訪問(63.1.19)そのときのお話を参考にしてこれを記す。上野敦行)



三浦邸跡に建った明大11号館(昭和63年)

⑥



昭和30年代の「とちの木通り」入口  
(富士銀行お茶の水支店提供)

⑤



錦華小学校の教室で子供達に化学の実験をみせている工化学生  
(昭和24年頃)

## 錦華公園とその周辺

工化2号館の側にある錦華小学校は、日本全国の小学校のなかで非常に古い歴史をもっている。明治6年の創立である。同校を訪れたところ、教頭の石川先生が資料室や図書室を案内して下さい、いろいろお話を伺うことができた。

昭和37年には、天皇・皇后両陛下をお迎えして、創立90周年の式典を、また昭和47年には皇太子御夫妻をお迎えして100周年の式典を行ったという。

同校の卒業生には文化人が多く輩出し、文豪の夏目漱石、鍋木清方（画家）、水原秋桜子（俳人）、波多野完治（心理学者）、井口基成（ピアノ）、福田恆存（評論家）、杉下茂（野球）その他数多くの方があげられる。

錦華小学校の子供達と工化の学生というと 奇異な感をもたれるかも知れない。昭和25年前後の頃、工化学生有志その他により児童科学研究会があり社会活動を活発に行っていた。左上の写真は錦華小学校の教室に研究会の桜井吾朗、入倉芳郎（何れも工化学生）が出向いて、同校の子供達を集めてフェノールフタレンの発色や、あぶり出し（紙に薬品で字をかき火であぶる）などの化学実験をみせているところである。当時の学生気質は学生時代から何らか社会に貢献しようという意識を持っており、大学外でこのような活動が行われていた。

昭和20年代の錦華公園には、錦華幼稚園（下の写真）があった。昼休みの時間帯に、工化の学生がキャッチボールをする姿をよくみかけた。「野球禁止」の立札がたち、そのうち幼稚園の前に金網のフェンスがたてられた。子供達にかなり迷惑をかけたものと思う。

その当時錦華公園から工化2号館や山の上ホテルはよく眺められたが、約30年経った現在公園内の樹木はすっかり成長して、2号館も山の上ホテルも公園からは眺められなくなってしまった。年数の経過を改めて感じざるを得ない。



昭和63年代の錦華公園



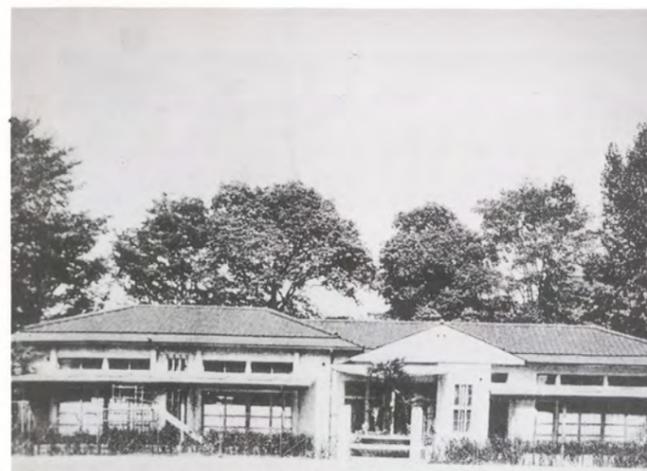
錦華小学校（錦華小学校提供）



夏目漱石



夏目漱石の記念碑



錦華幼稚園（昭和23年）（錦華小学校提供）



工化2号館

山の上ホテル

錦華公園



昭和7年頃の三省堂  
(木内武郷氏提供)



昭和初め頃の本屋街  
(「本の街」編集室提供)



(千代田区役所提供)



昭和10年代頃の本屋街  
須田町より九段方面に都電が走っていた。(千代田区役所提供)

## 本の街(神保町)

東京で古本屋街というと先づ神保町があげられる。江戸時代の地図(本誌142頁参照)をみると表神保小路に面した通りに、5000石の旗本の神保伯守の邸があり、神保町の名付け親と伝えられている。現在の神保町は、江戸時代の地図の裏神保小路の位置にあたるらしい。

明治8年に神保町に本屋がたったのが始まりで、次第に本屋がこの地区に多く集まり、開業して「古本屋街」として名をひろめていった。明治8年を起点とすると本年度114年の歴史をもつことになる。

神保町の南側に本屋は少く、北側に集っている理由は、陽当りで本がいたむのを防ぐためと聞く。有名な岩波書店や三省堂も古本屋から始まったといわれる。昭和20年代のこれらの書店は全て木造家屋であったが、現在はかなりの書店が立派なビルに建て替えられている。

毎年、10月頃には「古本まつり」が行われ、「本の街」は多勢の人で混雑する。左の写真は昭和62年に神田郵便局で売り出した記念切手シートである。

学生時代にこの本屋街で本を買いあさったり、授業のあい間に散策したり、思い出の多い街である。

第28回神田古本まつり

62.10.27 ~ 11.3



(朝日新聞 昭和63年5月22日(日)朝刊  
ウィークエンド経済より転載)



昭和63年の三省堂



昭和62年の本屋街(第28回古本まつり)



# 駿河台下周辺の移り変り

駿河台下というと「すずらん通り」「三省堂」がすぐ頭に浮ぶ。駿河台周辺の移り変りもはげしいものである。木内武郷氏（レオマカラスヤ社長）のご好意により、昭和10年代のすずらん通りや駿河台下周辺の写真を掲載した。また本の街編集室からお借りした駿河台下交差点には、当時お茶の水駅に向かう都電や、須田町から九段へ向かう都電が写っており、何れも大変貴重な写真である。

昔のすずらん通りは、木内氏のお話によると夜店の屋台が並び、大変人通りの多い賑やかな通りだったという。

三省堂は昭和56年頃現在のビルに建替えられた。消防署は昔と同様に健在であるが、「火のみ櫓」は時代の流れて役に立たず、ビルの谷間に櫓だけは現在も健在である。この交差点の周辺はやたらにスポーツ用品の店が多くなり、昔あった駄菓子屋風の店はすっかり消え失せてしまった。

（木内氏の話を参考に記す上野敦行）



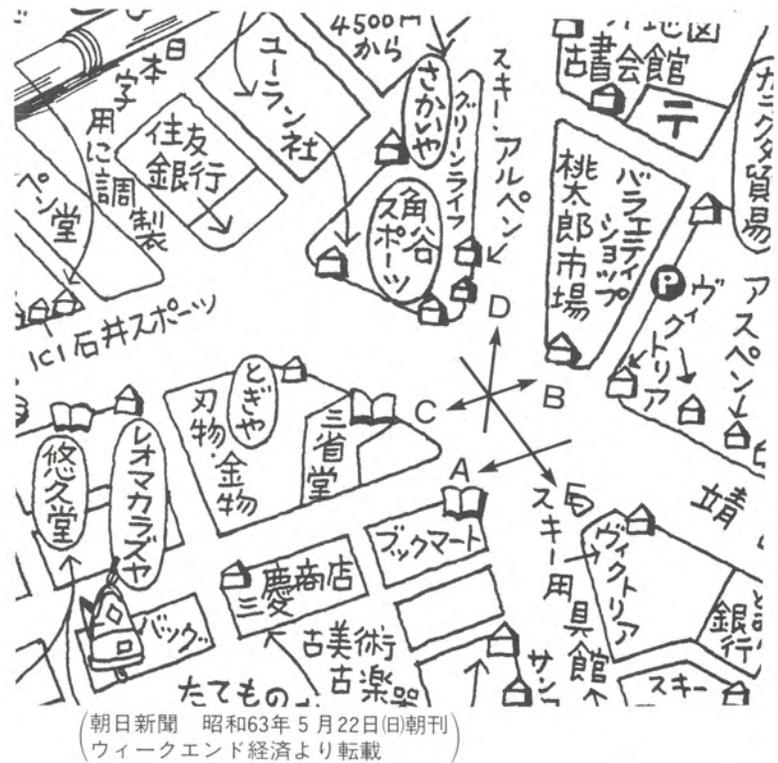
A すずらん通り（昭和11年）  
（木内武郷氏提供）



A すずらん通り（昭和12年）  
（木内武郷氏提供）



A すずらん通り（昭和63年）





B 駿河台下交又点 (昭和11年)  
(木内武郷氏提供)



D 駿河台下交又点 (昭和7年)  
(「本の街」編集室提供)



B 駿河台下交又点 (昭和63年)



D 駿河台下交又点 (昭和36年)  
(千代田区役所提供)



C 駿河台下 三省堂前の都電停留所(昭和11年)  
(木内武郷氏提供)



E 駿河台下交又点 (昭和12年)  
(木内武郷氏提供)



C 駿河台下 三省堂前 (昭和63年)



E 駿河台下交又点 (昭和63年)

# 駿河台周辺の映画館



（「本の街」編集室提供）

神田日活



東洋キネマ（中央大学大学史編集課提供）



角座



シネマパレス（「本の街」編集室提供）



（「本の街」編集室提供）

映画館の南明館の前身で、勸工場（かんこうば）であった時の絵である。勸工場とは現在のデパートのようなもので現在の鈴らん通りにももう一つ東明館があったという。

昭和20年代の学び舎周辺には、映画館が神田日活（封切館）、東洋キネマ、角座、南明座、大都館、シネマパレスおよび銀映館の7つあった。また寄席が鈴らん通りの近くに「花月」、また名を思い出せないが須田町の交差点（現在の地下鉄口）にもあった。現在とちがって当時は映画や寄席が比較的是やりに、休講などのときには学生がよく入ったものである。このうち東洋キネマはかなり最近まで営業していたが遂に廃業となり、お茶の水地区の映画館や寄席は全てなくなった。50年間の時代の移り変りをよく物語っている。



# 工業化学科50年史略年表

年	日本大学	社 会	年	日本大学	社 会
明22 大9	日本法律学校設立 日本大学高等学校設置 (両国日大一高校舎) 校長：佐野利器	*世界最初のラジオ放送開始 *ノーベル賞 〈化〉ネルンスト(独):化学熱力学の研究 *国際連盟成立	昭7		*ノーベル賞 〈物〉ハイゼンベルグ(独): 量子力学の研究 *満州国建国宣言 *五・一五事件 *超伝導のマイスナー効果の発見 (マイスナーとオクセンフェルト、独) *ベンゼンの分子構造についての 共鳴理論(ポーリング、米) *日本国際連盟脱退 *人工放射能の発見 (F. I. キュリー夫妻、仏)
11		*コンプトン効果の発見 (コンプトン、米) *ビタミンEの発見 (エバンスとビショップ、英) *質量分析計の発明と同位体の研究 *ソビエト社会主義共和国連邦成立 *強電解質の理論 (デバイ・ヒュッケル、独) *無線放送各国で始まる *ノーベル賞 〈化〉ブレイグ(オーストリア): 微量分析法の研究 *関東大地震起こる	8		
12			9		
13 14	日本大学工学校	*量子力学の基本方程式 (ハイゼンベルグ、独、テイラック、英) *排他原理(パウリ、スイス) *ポーラログラフの発明(ヘイロウスキ ー、チェコスロバキアと志方益三、日) *実用テレビの発明(ヘアード、英) *ノーベル賞 〈化〉ジークモンディ(独): コロイドの研究 *日本、普通選挙法成立	10 11 12 13	高等工学校、専門部工科、 学部に工業化学科設置	*中間子理論の発見(湯川秀樹、日) *レーダーの実用化(イギリス) *二・二六事件 *ナイロンの発見(カローザス、米) *ウランの核分裂反応発見 (ハーンとシュトラーマン) *太陽熱源の原子核反応説 (ワイツェッカー、独; ベーテ、米) *ノーベル賞 クーン(独): ビタミンB <sub>2</sub> の発合成 * DDTの発見(ミュラー、スイス)
15			14	佐野利器工学部長辞任 茂庭忠次郎 第二代工学部長に就任	
昭2			16	大学学部等の在学年限ま たは修業年限の臨時短縮 竹村勲 第三代工学部長に就任 工学部定員変更 副総長制設定 工学部定員変更	*太平洋戦争勃発(真珠湾攻撃) *二中間子論(坂田昌一) *ポリエチレン工業生産開始(英)
3	工学部設置、同子科を 開設 初代工学部長：佐野利器	*波動力学の創始 (シュレディンガー、オーストリア) *ビタミンB <sub>2</sub> の発見 (ゴールドバーガー、米) *不確定性原理の提唱 (ハイゼンベルグ、独) *電子の波動性を実証(デビッソン、 ガーマー、米; G. P. トムソン) *ラーマン効果の発見 (ラーマン、インド) *α崩壊の理論(ガモフ、ソ)	17 18		*理化学研究所、サイクロトロン (200トン)をつくる *ノーベル賞 〈医・生〉ダム(デンマーク): ビタミンKの発見 *オンサガー(米) 形質転換因子が DNAであることを証明 *ワックスマン(米) ストレプトマイシンの発見 *吉田富三(日) 吉田肉種を発見肉腫 *ノーベル賞 〈化〉ハーン(独):核分裂の発見 *マクミラン(米):ヘスクラー(ソ) シンクロトロン発明 *ノーベル賞 〈物〉ハーン(独):核分裂の発見 *ノーベル賞 〈物〉パウリ(スイス):排他原理の発見 〈医・生〉A・フレミング(英)、 イェイン(英)、H・Wフローリ(英) ペニシリンの発見 *独、日、無条件降伏 *レーダーによる月面の観測 (ヘルシュバーク、米) *人工降雨の実験開始 (ラングミュア、米) *第一回国連総会
4		*電磁場と万有引力の統一理論 (アインシュタイン、独) *世界経済大恐慌	19	工学部、専門部工科 定員変更 高等工学校に冶金科設置	
5	日本大学工学校 駿河台に開設	*高分子溶液の粘度式提出 (シュタチンガー、独) *アセチレンのビニル化反応発見 (レッペ、独) *ノーベル賞 〈医・生〉ラントシュタイ ナー(オーストラリア):血液型の発 見と研究 *ビタミンDの合成 (ウインダウスら、独) *合成ゴムの発明(カローザス、米) *満州事変勃発 *中性子の発見(チャドウィック、米) *陽電子の発見(アンダーソン、米)	20	高等工学校冶金科廃止 学長に呉文柄就任  横地伊三郎 第4代工学部長に就任	
6			21	総長、総裁に呉文柄就任  日本大学工学校開校 大学予科を三島市に開設	
7					



初代校長  
金子堅太郎



初代総長  
松岡康毅



2代  
平沼騏一郎



3代  
山岡萬之助

年	日 本 大 学	社 会	年	日 本 大 学	社 会
昭21	呉文柄 理事長・会頭に就任	* インドシナ戦争はじまる	昭29		* ノーベル賞 〈仏〉ポーリング(米)：化学結合の研究
昭22	佐藤運雄理事長に就任 専門部工科を 郡山市に移転	* 軽重2つの中間子発見 (ラテックス等、米)	30		* インドシナ休戦・協定調印
	教育基本法(学校教育法) 公布	* トランジスターの発見(ブラッテン及 バーディーン、ショックレー、米)			* 反陽子の発見 (セグレ及チェンバレン、米)
	六・三・三制教育実施	* ノーベル賞 〈化〉ロビンソン(英)： アルカロイドの研究	31	葉山寮	* 人造ダイヤモンドに成功 (ホール等、米)
昭23	日本大学工業学校を廃止 し、新制の日本大学工業	* 新憲法施行			* インシュリンの構造決定 (サンガー、英)
昭24	日本大学工業高等学校 2月新学制による大学 (第1部)設置	* ホログラフィ理論(ゲイバー、英)			* 世界初商業用原子炉発電(英)
	新制工学部第1部 工業化学科発足	* 大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国 成立			* 水俣病発生(日)
	新学制による 大学(第2部)設置	* Cによる年代決定法(リビー、米)			* ポリプロピレンの構造(伊)
	3月新制工学部第2部 工業化学科発足	* ジェット旅客機コメット初の実用化 (英)			* ノーベル賞 〈物〉ブラッテン(米)、バーディーン (米)、ショックレー(米)： トランジスターの発明
	高等工学校募集停止	* ノーベル賞 〈物〉湯川秀樹(日)：中間子理論	32	工学部工業経営学科、 津田沼校舎で授業開始	* インシュリンの構造決定(英)、セミョー ノフ(ソ)：化学反応速度論の研究
	12月理事長に 古田重二郎就任	* 中華人民共和国成立			* 日本、国連に加盟
昭25	短期大学設置	* チャレンジャー8号、世界一周			* 超伝導のBCS理論 (バーディーンら、米)
	短期大学応用化学科 第1部、第2部設置	* 朝鮮戦争はじまる			* 初の人工衛星スプートニク1号(ソ)
	8月高等工学校を 工業専門学校と改称	* コレステロールの合成に成功 (ウッドワード、米；ロビンソン、英)			* 南極で12ヶ国が気象観測開始
昭26	4月新学制による 大学院修士課程設置	* メーカーの発明(クウンズ、米)			* カナマイシンの発見(梅沢浜夫ら、日)
	工学研究科 (応用化学専攻)	* サンフランシスコ対日講和条約			* 日本、実験用原子炉完成
	11月永田菊四郎 学長に就任	* 日米安全保障条約調印			* トンネル・ダイオードの発明 (江崎玲於奈、日)
昭27	2月工学部に薬学科、 工業経営学科設置	* フロンティア電子軌道論 (福井謙一、日)		工学部に物理科を設置 理工学部と改称	* DNAの酵素的合成に成功 (コーンバークら、米)
		* ノーベル賞 〈化〉マーティン(英)、シング(英)： 分配クロマトグラフによるアミノ酸 分析法の発見		呉文柄総長辞任、 総裁に就任	* ライカ犬をのせた人工衛星成功(ソ)
		* 医・生)ワックスマン(米)： ストレプトマイシンの発見		古田重二郎理事長、 会頭に就任	* パラメトロン(高橋秀徳、後藤英一、日)
		* 米、水爆実験(エニウェツクで)		永田菊四郎総長に就任	* 三井石油化学、ポリエチレン、 アセトンの生産開始
昭28	3月大学院博士課程設置	* 常温常圧下でのエチレンの重合法発見 (チーグラ、独)		横地伊三郎理工学部長、 学長に就任	* ノーベル賞 〈化〉サンガー(英)： インシュリンの構造決定
	工学研究科 (有機応用化学専攻)	* DNAの構造解明 (ワトソン、米；クリック、英)		日大講堂開設	* 欧州共同体発足
	4月 呉文柄総長三選	* 小児マヒワクチン完成 (ソータ、カナダ)		理工学部に数学科設置 理工学部定員変更	* アラブ連合結成
		* NHKテレビ放送開始			* 惑星間宇宙ステーション、ルナ3号、 月の裏側写真撮影成功(ソ)
		* ノーベル賞 〈物〉ゼルニケ(オランダ)： 位相差顕微鏡の完成	34		* ヘモグロビン、ミオグロビンの立体 構造の決定(ベルツ及ケンドルー、英)
		* 化)シュタウディンガー(独)： 高分子化学の研究			* ノーベル賞 〈化〉ヘイロウスキー(チェコ)： ポーラログラフ分析法の発見
29		* 初の原子力潜水艦ノーチラス号進水 (米)			* 医・生)オチョア(米)：RNAの合成 コンバーク(米)；DNAの合成
		* パチスカーフ号、4,050mの深海記録 達成(仏)	35		* レーザーの発振に成功(メイマン、米)
					* 世界初のトランジスターTV発売 (ソニー、日)
			36	理工学部工業経営学科を 経営工学科と改称	* 乾式複写機(ゼロックス914型、米)
				同時に定員変更	* ソ連宇宙船ボストーク1号、地球1周 に成功
				永田菊四郎総長に就任	* モノリックICを発表(ノイス、米)
				横地伊三郎学長に就任	* ノーベル賞 〈化〉カルビン(米)： 植物の光合成の研究
			37	理工学部、第二工学部、 理工学部(第2部)、 定員変更	* X線星の研究(ジャコニら、米)



4代  
呉文柄



5代  
永田菊四郎



6代  
鈴木勝



7代  
高梨公之

年	日本大学	社 会	年	日本大学	社 会
昭37	横地伊三郎学長に就任	*ノーベル賞 〈医・生〉ワトソジ(米)、クリック(英)、ウィルキンス(英)：DNAの分子構造と生体における情報伝達に対する意義	昭43	主任選挙内規成立 第1回主任選挙、金丸教授当选 学部長選挙規則成立 学部長代行選挙、木村秀政教授選出 理工ニュース(教会PR社)発刊決定 寄附行為改正 会頭制を廃し、会長と理事長とに代表権	*プレートテクトニクス理論(T.ウィルソン等、カナダ) *大陸間弾道弾打ち上げ成功(米) *水俣病の原因、メチル水銀と判明 *日本初の心臓移植 *ノーベル賞 〈化〉オンサガー(米)：熱力学の相反定理の発見
38	大学院修士課程、博士課程、工学研究科に物理学専攻・数学専攻・地学専攻を増設し、工学研究科を理工学研究科と改称 理工学部工学研究所設置 原子力研究所設置	*素粒子のクォーク模型(ゲルマン及ツウィク、米) *女性宇宙飛行士テレシコフ、ポストーク6号飛行・帰還(ソ) *日米間TV宇宙中継実験に成功(日、米) *ノーベル賞 〈物〉ウィグナー(米)：量子力学における対称性の発見 メイヤー(米)、イエンゼン(独)：原子核の殻構造理論 〈医・生〉エクルズ(豪)、A.L.ホジキン(英)、A.F.ハクスリー(英)：神経細胞膜のイオン機構の発見 *ケネディ米大統領暗殺 *電気抵抗の極小に関する理論(近藤淳、日) *国鉄、東海道新幹線を開業(日) *トランジスター電卓の生産開始(日) *ノーベル賞 〈物〉タウンズ(米)、バソフ(ソ)、プロホロフ(日)：レーザーの発見 〈化〉D.C.ホジキン(英)：X線による生化学物質の構造決定 〈医・生〉ゴロホ(米)、リネン(独)：コレステロールと脂肪酸の研究 *東京オリンピック開催	44	四次卒業生卒業試験学外で実施(理工) 鈴木勝、総長就任 高梨公之、理事長に就任 法学部大宮校舎落成 生産工学部独立 中原教授名誉教授に 崎川教授着任 永田名誉総長逝去 鈴木勝、総長に就任 授業再開(全日大) 授業再開宣言(理工) 秋田教授逝去	*アポロ11号人類初の月面着陸(米) *超音速旅客機コンコルド初飛行(英、仏) *米各地でベトナム反戦デモ
39	永田菊四郎総長3選 横地伊三郎学長に就任	*無人の月探査機ルナ9号月面に軟着陸(ソ) *自動ステーション金星3号、金星に到着(ソ) *アレルギーの原因物質、免疫グロブリンEを発見(石坂公成等、日) *日本原子力発電会社本格運転開始 *ノーベル賞 〈化〉マリケン(米)：分子軌道法の研究 〈医・生〉ラウス(米)：発ガン性ウイルスの発見 *文化大革命(中国)	45	松本教授教室主任再選 講堂に自動暗幕装置(理工) 7号館完全冷暖房空調(理工) 2号館講師室誕生 「習志野ニュース」発刊 齋藤学部長逝去 木村秀政第6代理工学部長就任 8号館教室冷房化(理工) 古田会頭逝去 教室基金運営規則成立 伊藤舜介教授逝去 内海教授教室主任就任 カウンセリングルーム設置(理工) 金丸教授叙勲 カリキュラム改正 電子計算機センター開所(理工) 三宅学生担当逝去 理工学部50周年記念パーティ	*酵母のアラニン RNA遺伝子の人工合成に成功(コラーナ、米) *国産1号人工衛星“おおすみ”打ち上げ成功(日)、ソ、米、仏に次ぐ4番目
40	理工学部経営工学科募集停止 日本大学工業高等学校定時制募集停止		46	航空、電子、海洋コース設置 木村学部長副総長就任 鈴木勝総長再選 永沢滋理事長就任 内海教授教室主任再選 寄附行為改正 会長制廃止 丸茂研究所教授逝去 9号館竣工	*金星7号、地球へのデータ送信に成功(ソ) *火星探査成功(米、ソ) *ノーベル賞 〈物〉ガボール(英)：ホログラフィーの発見 *大学設置基準改正 *沖繩返還協定調印
41	吉田総理大臣に名誉学位 第1工学部で電気工学科・統計学科を設置し、生産工学部と改称 第2工学部を工学部と改称		47		*ローマクラブ「成長の限界」刊行 *ノーベル賞 〈物〉バーディーン(米)、クーバー(米)、シュリファー(英)：超伝導の理論的解明 *ニクソン米大統領中国訪問
42	市川良正教授 理工二部次長に就任 横地学長逝去(叙勲正4(叙勲正4位勲2等瑞宝章)齋藤謙次第5代理工学部長に就任 永沢(医)、秋葉(文)、 商学部全校舎落成 永田菊四郎総長4選 韓国中央大学校と交流協定 小島教授訪問団長				
43	山岡名誉総長逝去 学園紛争起る 助手教室会議初参加	*アモルファス半導体の発見(オブシンスキー、米)			



初代工学部長  
佐野利器



第2代工学部長  
茂庭忠次郎



第3代工学部長  
竹村勲悉



第4代工学部長  
横地伊三郎

年	日 本 大 学	社 会	年	日 本 大 学	社 会
昭48	電子顕微鏡設置 JEM-100B  大学院修士課程・応用化学専攻・博士課程・有機応用化学専攻をそれぞれ修士課程・博士課程・工業化学専攻と改称 八田四郎次先生逝去 鈴木勝総長勲一等 理工50周年史出版 加藤教授学部長に就任 小島教授教室主任に就任 通信教育部25周年	* 医学部浜島義博教授、川崎熱の病原体分離 * ノーベル賞 〈物〉江崎玲於奈(日)、ジェーバ(米)、ジョセフリン(米)：トンネル効果の研究 * 第1次オイルショック物価急上昇  * ヤマニ石油相に本学名誉学位 * 金大中氏誘拐事件 * ベトナム和平協定調印	53	理工学部第1部に海洋建築 航空宇宙工学科、電子工学科設置 習志野10、11号館完成 航空、電子、海岸コース学科に昇格 2部募集停止 本学隊北極点到達 鈴木勝総長4選 第1回学術賞(理工)	* 大腸菌内でのヒトインシュリンを合成(ギルバート等、米) * 体外受精児誕生(英) * ノーベル賞 〈物〉ペンシラス(米)、ウイルソン(米)：宇宙背景放射の発見
49	分析センター設立 精密質量分析装置(RMU-7M002型設置) 日本大学工業専門学校(旧高等工学校)廃止 日本大学工業高等学校を廃止し、日本大学習志野高等学校と改称 新カリキュラム実施 ハワイ大学と交流協定 鈴木総長理事長就任 就業規則制定 85周年記念式典 サンパウロ大と姉妹締結	* 新素粒子J/Pの発見(リヒター、米：ティン、米) * 地域気象観測システム“AMeDAS”正式発足 * ノーベル賞 〈化〉P.J.フローリ(米)：高分子物理学の研究 * 三菱重工爆破	54	国際関係学部誕生 加藤学部長新副総長に就任 クウェート大学と交流協定 高梨理事初代国際関係学部長に就任 和井内教授クウェート大学へ出張 加藤学部長三選 学科名変更、交通工学→交通土木 和井内教授教室主任に就任	* ミニコン、パソコン発表、ブームの口火を切る(日) * 木曾御岳、有史以来初噴火 * 一般受信用の真空管の製造終了(日) * WHO、天然痘根絶宣言 * スリーマイル島原子力発電所大事故(米) * 共通一次試験はじまる * 第2次石油ショック
50	ガスクロマトグラフ質量分析装置(LKB9000、300B型設置) 統一卒業式7年ぶり復活 鈴木勝総長三選 内海教授広報担当に 池村教授学生担当に 内海教授教室主任に就任 大型構造物試験機 低速風洞設置	* ベトナム戦争終結	55	栃木助手学術賞受賞 クウェート大学理学部長来訪 外山修之先生逝去 L.L教室完成(理工) 環境問題でわが国初の日米セミナー(文理) 理工60周年記念式典 崎川元教授叙勲 米イリノイ大学と学生交換	* ニュートリノに質量発見(ライネス、米) * ボイジャー1号、土星の輪を探索(米) * ロボット加工組立によるロボット生産工場(日) * ヒトのインターフェロン生産に成功(米) * ノーベル賞 〈化〉バーク(米)：遺伝子工学の基礎的研究 * ギルバート(米)、サイガー(英)、核酸の塩基配列の研究 * イラン・イラク戦争はじまる
51	核磁気共鳴装置 NMR FT-100設置 人力飛行機ストーク号 446m新記録樹立 大型構造物試験棟及風洞実験室公開 バイ中間子研究陣容固まる 学部長選挙 加藤理工学部長再選 ベルリン自由大学と姉妹校締結 Jムラン大学(仏)と姉妹校締結	* バイキング1、2号観測機材の火星着陸、写真撮影、資料分析に成功(米) * 五つ子日大板橋病院入院	56	和田教授クウェート大学へ客員教授 二波長分光装置設置 成績管理コンピューター化 韓国中央大学校と教授、学生交換の覚書交わす 東独ホーネッカー国家元首に名誉学位 90周年記念募金18.3億円 鈴木総長五選(選挙実施) 板橋教授短大応化長就任 寄付行為改訂 新理事長に柴田氏 小島教授教室主任に就任 一般教育邑上助教逝去 日大新聞創刊60周年 内海教授日本分析化学会賞受賞 クウェート大学長一行来訪	* ヒトのミトコンドリアDNAの全塩基配列の解説(サンガー等、英) * ヤンバルクイナ発見される(日) * スペースシャトル・コロンビア号2度の成功(米) * ノーベル賞 〈化〉福井謙一(日)、ホフマン(米)：化学反応課程の研究
52	短大2部応用化学科廃止 人力飛行機「ストーク改」 2093m新記録樹立 短大化→理工学学科への編入可能となる 元中原教授逝去 内海教授短大次長に就任 2部募集停止決定 グーテンベルグ大と姉妹校締結 小島教授教室主任に就任	* 小西六、自動焦点カメラ開発 * 惑星探査機ボイジャー1、2号打ち上げ(米) * ノーベル賞 〈化〉フリコシン(ベルギー)：非平衡の熱力学	57	呉文柄元総長大学葬(理工)木下、(医)佐藤両教授に総理大臣賞	* 人工心臓の移植(米) * サリュート号宇宙滞在7ヶ月(ソ) * フォークランド紛争



第5代理工学部長  
齋藤 謙次



第6代理工学部長  
木村 秀政



第7代理工学部長  
加藤 渉



第8代理工学部長  
木下 茂徳

年	日 本 大 学	社 会	年	日 本 大 学	社 会
昭57	超強力X線発生装置設置 RU-200(分析センター) バーディーン教授に名誉 博士号授与 加藤学部長四選 日本大学会館落成 東田政治氏逝去 図書館にオンライン端末 機導入		60	蛍光X線分析装置設置 質量分析装置機種交替 (分析センター) 筑波科学万博見学会 元素分析装置機種交替 (分析センター) 木下教授学部長就任 小島教授教室主任に就任	る化学合成法の研究 * ハレー彗星地球大接近 ハレー彗星探査機、ショット打ち上げ (欧州宇宙機関) * 筑波化学万博(日) * 日航ジャンボ機墜落、520人死亡、 女子4名生還
58	幡野佐一元非常勤講師逝 去 一新会賞設立	* 赤外線天文衛星第2、第3の“太陽系” を発見(米、英、オランダ共同)	61	危険物管理委員会設置 工化創立50周年記念事業 準備会発足	* 伊豆大島三原山大噴火 全島民一時避難
59	2部廃止 和井内教授教室主任就任 小島教授理工図書館長就 任 工科山ノ家使用中止 排水3次処理装置運転開 始(2, 8号館) ワードプロセッサ設置 (シャープWD-2200)	* 日本の体外受精誕生(1985年秋死亡) * 大韓航空機墜落事件 * ボパールで毒ガス漏れによる大事故 (インド) * ノーベル賞 〈物〉ルビア(伊)、ファン・デル・メル ル(オランダ):ウイークボソン発 見への貢献 〈化〉メリフィール(米):固相反応によ	62	400M核磁気共鳴装置 (分析センター) 市川良正元教授逝去 ICP発光分光分析装置設 置(工化) 真下講師学術賞受賞 薬学科募集停止	

貴重な写真や資料をご提供いただきました方々の  
ご芳名を記し、感謝の意を表させていただきます。

(五十音順・敬称は省略させていただきました)

(株)主婦の友社 資料センター  
千代田区役所 企画部広報課  
千代田区立 錦華小学校  
中央大学 広報部大学史編纂課  
東京大学工学部教授 三浦謹一郎  
富士銀行 お茶の水支店  
本の街 編集室  
明治大学 総務部歴史編纂事務室  
山脇美術専門学院 広報課  
レオ マカラズヤ(株)社長 木内武郷

日本大学本部 学生部厚生課、 管財課  
日本大学理工学部 庶務課、 管財課  
日本大学新聞社

工業化学科関係者のお名前は省略させていただきました。

## 50周年記念会委員 (50音順)

委員長	松本太郎 (旧-16)		
組織委員会	穴沢一郎 (旧-20)	池村 紘 (旧-22)	板橋國夫
	内海 諭	太田善造 (旧-20)	小島和夫 (旧-26)
	齋藤喜久蔵 (旧-21)	関谷道雄 (旧-22)	田所俊男 (高-17)
	野村昌夫 (旧-24)	松本太郎 (旧-16)	
総務委員会	磯崎昭徳 (学-37)	越智健二 (学-36)	上條治夫 (学-50)
	栗田公夫 (学-36)	桜川昭雄 (学-48)	※田村利武 (学-27)
	滝戸俊夫 (学-45)	栃木勝巳 (学-42)	真下 清 (学-41)
	和井内 徹 (学-27)		
募金委員会	荒井康夫 (旧-27)	石山利男 (学-44)	植竹和也 (学-30)
	小沢 修 (学-56)	大内 蕃 (学-29)	奥谷忠雄 (学-30)
	川津義人 (学-48)	倉形邦英 (学-35)	栗田公夫 (学-36)
	栗原清文 (学-58)	清水一夫 (学-36)	鈴木昌利 (学-27)
	田村利武 (学-27)	※名取 康 (旧-17)	中沢利勝 (学-31)
	深津 誠 (学-53)	南山 齊 (専-23)	宮森 宏 (学-27)
祝賀会実行委員会	青木繁樹 (学-31)	秋久俊博 (院-48)	岡島武義
	高木三郎 (学-33)	滝戸俊夫 (学-45)	武末知行 (学-33)
	鳥谷部 哲三郎 (学-30)	双木利子 (短-31)	日秋俊彦 (学-54)
	本間 栄治 (学-55)	真下 清 (学-41)	安江 任 (学-41)
	山田 翠 (学-28)	米田虎雄 (学-29)	※和井内 徹 (学-27)
記念誌編集委員会	※伊藤和雄 (旧-20)	市川次良 (学-27)	上野敦行 (学-28)
	梅北 司 (学-43)	越智健二 (学-36)	門井守夫 (学-36)
	亀ヶ森 進 (専-17)	桜川昭雄 (学-48)	澤口孝志 (学-49)
	田川浩行 (学-38)	永島一男 (学-45)	村川信子 (短-35)
	山本周治 (学-35)		

※印：各業務委員会委員長

## 〔編集後記〕

工業化学科創立五十周年をむかえ、なにか記念になることをしよう。百周年にむけてなにかを残そう。こんな話合いの中から生れたのがこの「工化五十周年記念誌」である。以来あしかけ二年、写真や資料の収集、原稿の依頼、編集作業と委員の方々は忙しい本職の合間に努力した。もっとも委員長である私は委員会の熱気に口を差しはさむ必要もなく、なんにもしなかった。出来上がった本誌は、我田引水ながら当初予想したものよりはるかに立派である。玉稿を賜わり、貴重な写真や資料をご提供くださった各位に厚く御礼申し上げるとともに、委員の方々のご苦労と、素人の勝手な要望に答えてくれた(株)秀峰の皆様に感謝する次第。

ひとくちに五十年と言うものの、その歳月は決して短くはない。その間に戦争、敗戦、新制移行、学園紛争といろいろの事があった。そのせいか写真などほとんど出てこなかった年代もあって、資料の集まりは決して十分とは言えない。日頃の史料にたいする心構えと、その担当部署を決めておくことの必要性を痛感した。これからは過去の資料の収集・整理と、次ぎの「百周年記念誌」にむけて、その時々の記録の保存に万全を期していただきたい。

とにかく、永遠に発展し、のびてゆくわが日本大学工学部工業化学科の一番目の一里塚として、ささやかな記録を後輩諸子に残し、校友の皆様に本誌をお届けすることが出来たことをたいへん嬉しく思う。

編集委員長 伊藤和雄



工業化学科創立50周年記念誌編集室内風景

---

## 五十年の歩み

日本大学工学部工業化学科創立50周年記念誌

---

昭和63年9月14日 発行 (非売品)

編集・発行 日本大学工学部工業化学科  
創立50周年記念委員会

〒101 東京都千代田区神田駿河台1-8 電話 03-293-3251

---

写真製版 株式会社 平河工業  
印刷 株式会社 秀峰  
製本 東京美術紙工

---

